

授業科目名 (英文表記)	オトナの生涯スポーツライフとプロモーション (Sports Life and Sports Promotion for the Aging Population)		
単位数	2	授業形態	講義・フィールドワーク
担当教員	彦次 佳、辰巳 信平(ゲストスピーカー)、谷所 慶(ゲストスピーカー)		
開講	南紀熊野サテライト	区分	大学院
実施日・時間	第1回 5月17日(金) 18:30~20:50 (担当:彦次)		
	第2回 5月18日(土) 10:00~16:00 (担当:彦次)		
	第3回 5月31日(金) 18:30~20:50 (担当:彦次、辰巳[ゲスト]、谷所[ゲスト])		
	第4回 6月1日(土) 10:00~16:00 (担当:彦次、辰巳[ゲスト]、谷所[ゲスト])		
	第5回 6月14日(金) 18:30~20:50 (担当:彦次)		
	第6回 6月15日(土) 10:00~16:00 (担当:彦次)		

【授業のねらい・概要】

本講義ではまず、成人期以降のスポーツの多様な楽しみ方について紹介し、オトナになったからこそ味わえるスポーツの楽しみ方、オトナになったからこそ広がるスポーツ文化について共に考えていく。そして、歳を重ねていく中でスポーツに親しむことの意義と、その可能性について皆で議論することを本講義の第一の目標とする。また、後半では、生涯スポーツのイベント・プロモーションのケーススタディとして、第一回アジア・オセアニアビーチアルティメット大会(白良浜)でフィールドワークを行ない、国際的なスポーツイベントの現場を体感し、スポーツイベントのプロモーションを学習することを第二の目標とする。

【授業計画】

第1回～第2回 『オトナのスポーツライフとプロモーション』 (担当:彦次)

健康づくり・体力づくりを主な活動目的とする運動・スポーツ実施(ヘルス・スポーツ)、余暇充足・趣味としての楽しさを満喫することを主な活動目的とするスポーツ実施(レジャー・スポーツ)、技を磨き競うというスポーツの本質的な楽しさに挑戦することを主な活動目的とするスポーツ実施(マスターズ・スポーツ)を紹介し、それらの基本的な知識と考え方を学習し、また、それらの活動によってどのような便益がもたらされるのかを学習する。そして、これらのスポーツライフをプロモートするための方法論として、運動・スポーツ活動の推進事業を効果的に行なうために共通して重要視されている振興概念や推進指標を紹介し、オトナのスポーツ・プロモーションの方法について理解を深める。

第3回～第4回 『オトナのスポーツライフ・フィールドワーク』 (担当:彦次、ゲスト:辰巳、谷所)

本講義のインシヤルプログラムとして、オトナになったからこそできるスポーツの楽しみ方とオトナのためのスポーツ・プログラムを、実際に体験する。熊野サテライト周辺のすばらしい自然に触れ、満喫するシーカヤクトリップを実施する^(注1)ことで、一般的にスポーツが持っている「早さ」や「強さ」といったイメージとは異なるスポーツの価値や楽しさを体感する。そして、歳を重ねていく中で様々なスポーツに親しむことの意義とその可能性について、皆で意見交換を行なう。

注1:荒天の際は日程を延期するなど、変更が生じる場合があります

第5回～第6回 『スポーツイベント・フィールドワーク』 (担当:彦次)

第3回～第4回で紹介した、スポーツ・プロモーションの実践事例として、第一回アジア・オセアニアビーチアルティメット大会を取り上げ、フィールドワークを行なう。アジア・オセアニア圏で初の開催となるビーチアルティメットの大会に入り込むことで、国際的なスポーツイベントの現場を体感し、運営のサポート等を行なうことでスポーツイベントのプロモーションについて実体験として学習する。

【到達目標】

本講義の到達目標は、成人期以降の多様なスポーツの楽しみ方とスポーツ・プロモーションの方法論について理解を深めること、また、歳を重ねていく中でスポーツに親しむことの意義と、その可能性について議論することとする。

【教科書】 特に定めません。適宜、資料を配布します。

【参考書】 ・『ジェロントロジースポーツ—成熟人生を“好く”生きる人のためのスポーツライフ』

(長ヶ原 誠, ジェロントロジースポーツ研究所: 2007)

・『生涯スポーツ実践論<改訂4版>』(川西 正志・野川 春夫 編著, 市村出版: 2013)

【成績評価方法】

議論への参加状況(40%)、小レポート(30%)、最終レポート(30%)など総合的に評価します。(評価責任者:彦次)

【授業時間外学習】本講義を通して普段何気なく見ているスポーツの現象などに対して、これまでより注意深く見る目を持ち、その現象がどのように発生しているのかなどを考えることを、本講義の時間外学習として位置付けます。

【履修上の注意・メッセージ】 第1回目の講義の際にアナウンス・相談する。

